

「石油事情講演会」開催

平成26年12月11日(木) / 産業貿易センター 主催：環境問題研究会

2011年以降、原油価格は1バレル100ドル台が続いたのち、このところの70ドル台での推移等、目まぐるしい変化を見せ、環境を考える上からも常に最新の情報を入手する必要がある。日本エネルギー経済研究所石油情報センターから西村好彰氏を迎え、石油を取り巻く事情について、講演いただいた。演目は、世界/日本の石油需給・価格動向、シェール革命の展望と日本への影響、日本の石油価格と税金、東日本大震災と日本のエネルギー政策、をテーマに、基本情報から世界の石油事情まで幅広い内容で話がされた。石油価格は如何にして変動するか、要因・仕組み、これを基にした今後の見通し、またシェールオイル・ガスについては、どんなもので、石油生産国への影響と、OPEC加盟国の対応、サウジアラビアの対応等、講師のこれまでの実務経験から得た知見も織り交ぜて説明された。シェールオイルのコストは、60ドルから70ドル程度といわれており、

これより原油価格が下がると開発が止まるとも予想されていたが、技術革新で更に下がる可能性が提起され、また埋蔵地も中東集中ではなく世界中に分布していることから、地球全体の燃料価格に影響を与えている。日本でも秋田県で実験規模のシェールオイル開発調査が始まっている。因みに、日本での石油消費量は1999年以降減少しており、ハイブリッド等、自動車の燃費改善効果が影響していると考えられる。

